

文＝五月女善重
(五月女総合プロダクト)

二代目はパラノイア

「社長、パカンスは行かないのですか？」
今年の夏、まとまった休みも取らずに
会社と店舗を往復する僕をみて、不思議
そうに社員が質問します。

「たまにお出掛けされても仕事のお付
き合いが多いようですが、プライベートの
旅行はされないのですか？」

「そうだね…。いや、君たちはどこでも
好きならどこに行つて来ていいんだよ」

答えにならない返事で曖昧に笑ったあ
と、僕は少し考え込んでしまいました。

「パチンコ屋の二代目というのは、生ま
れながらにして宝くじに当たったような
ものだね」

友人が以前、僕に放った言葉です。

異業種の方たちは、「パチンコ店はお店
を開けているだけで儲かる」「二代目はラ
クできる」という、無邪気な印象をお持
ちのようです。

さて、ボンボンと評される僕たち二代
目や三代目が本当に「ラクして」業務にあ
たっていたら、どうなるでしょう？ 想像

しただけでも僕は怖くなるのです。

偽装や虚偽申請が原因で、ベンチャー企
業から由緒ある老舗までもが次々と廃業
していますが、偽装も虚偽も元をただせ
ば、経営責任者の「ラクして利益を出そ
う」という怠慢に起因しているのではない
でしょうか。テレビのニュースでは、失職
した従業員さんたちが「働きの口がないと
生きていけない」と泣き崩れています。あ
る事件で逮捕された若手の元ITベンチ
ャー経営者は、「会社を永続させたいとは
思っていなかった」と述べていましたが、
なんと無自覚な発言でしょう。生きる糧
を奪われた方たちの心情を思うと、企業
経営の重責が畏怖の念となって僕を襲い
ます。

僕が、「このまま会社が存続するとは思
わない」と社員に言うのと、「え？」と驚いた
顔をされます。もちろんこれは極論で
「経営者の努力なしに存続しえない」とい
う意味ですが、それだけ多くの社員は
「会社は普通に存続する
ものだ」と思っているの
です。

数十年前の創業期に
比べ、情報の選択肢が多
様化した僕らの時代。ひ
とつでも選択を誤ると、
あつという間に足をす
くわれるでしょう。成功
の裏側には崩壊のもと

が存在すると思つていますから、いつも僕
は不安の中に自分を落とし込んでしま
うのです。

ある程度の権限委譲もして、店舗もそ
れで回り始めているように思います。自
分の右腕にすべてを任せ、趣味を楽しむ
環境にある経営者の方々を、羨ましいとい
も思います。でも臆病な僕はいまだに、
現場から目を離せずにいるのです。

インテル創設者のアンディ・グロブ氏
は、「極度の心配症」を「パラノイア」と表
現しましたが、どうやら僕も、かなりの
パラノイアのようなのです。

先代が築いたものを「死守しなければ
ば！」という気持ちの縛りも、僕を自由
な休暇から遠ざけているのかも知れませ
ん。

「結局は『二代目だから』かな…」
パカンスは行かないのですか？ という
問いに答えるように、僕は初秋の社長室
で、ひとりごちたのです。



さおとめ・よししげ

五月女総合プロダクト株式会社代表取締役
社長。大学卒業後、父親の営む建築
資材会社を経て、26歳でホール業界に。
釘調整など現場仕事を経験する中で「自
分の代になる」という強い意思のもと
2000年に屋号をライブガーデンに変更、
2003年代表取締役就任。「スタッフが主
役の会社づくり」を掲げ、栃木県南部を中
心に現在9店舗を経営。1965年生まれ。

[A]